

課題③：機器等のトラブルにより、授業の進行に支障が生じるリスク

- 主なトラブルとその対策例の発信や、ICT支援員・ICT活用教育アドバイザーの活用
 - トラブルが発生する可能性が低減する導入例の提示
 - 生じる主なトラブルと対策例を整理
(例：ハウリングが起きにくい機器の配備例、遠隔システムの接続が不安定な場合の対処例)
 - 機器等の準備や授業中の操作などを行うICT支援員の配置促進（4校に1人配置できるよう地方財政措置）
 - 遠隔教育の導入を含め、自治体のニーズに応じたICT活用教育アドバイザーの派遣

課題④：財政的な負担

- 各自治体が、地方財政措置も活用しつつ、遠隔教育に係る整備を進めることができるよう、目的に応じたICT環境構成モデル例や機器の活用事例の発信による、効率的・効果的な整備促進
 - 学習活動に応じて必要となる機器・費用を例示し、期待される教育効果を示すことにより、各自治体における予算措置・環境整備を促進
(web会議システムの利用例：初期費用93万円(+年15万円の利用料)
ビデオ会議システムの利用例：初期費用180万円) ※1教室当たり
 - 遠隔授業以外におけるICT機器の活用事例の提示
(例：学習者用コンピュータ、協働学習用ツール、デジタル教材)



Web会議システムを利用した例